令和６年度　卒業論文

和歌山県有田地方におけるアクセントの実態

広島大学文学部人文学科
日本・中国文学語学コース
日本文学語学専攻
B212543 生駒柚月

目次

1. はじめに
2. 先行研究
　2.1　金田一語類について
　2.2　第 4 類と第 5 類の統合状況について
3. 調査概要
4. 調査結果
　4.1　4 類名詞＋助詞
　4.2　5 類名詞
　　4.2.1　5 類名詞単独
　　4.2.2　5 類名詞＋述語
５．考察
　5.1　有田地方における類の統合過程
　5.2　「4 類＋助詞」LH-L 化の背景
　5.3　「5 類＋高起」LL-H…型の不安定性
６．おわりに
７．参考文献

1. はじめに

近年、大阪府や奈良県といった京阪式アクセント地域でアクセントに変化が生じていることが、先行研究により明らかになっている。京阪式アクセントは、2 拍名詞の第 4 類と第 5 類の区別があるところに共通語アクセントとの大きな違いがあった。近年見られる第 4・5 類の統合は、そのような日本語の代表的な方言アクセントである京阪式アクセントと共通語アクセントの類の数が同じになるという、日本語アクセントの歴史において大きな変化である。

そして、第 4 ・5 類が統合することにより、京阪式アクセントにおいて 2 拍名詞のアクセントの型を弁別する要素が一つ減ることもまた、大きな変化である[1]。伝統的な京阪式アクセントの場合、アクセント型を弁別するには、以下に示すように①アクセント核[2]を持つか②何拍目に核があるか③高起式か低起式[3]かという 3 つの要素が必要であった。

しかし、第 4 ・5 類が統合する新たなアクセントの場合、核を持たないものは第 1 類の語彙のみとなり、高起式か低起式かはアクセント型の弁別要素として機能しなくなるのである。

	伝統的なアクセント		新たなアクセント	
第 1 類	HH（HH-H）	無核・高起式	HH（HH-H）	無核
第 2 類 第 3 類	HL（HL-L）	有核・核 1 拍目	HL（HL-L）	有核・核 1 拍目
第 4 類	LH（LL-H）	無核・低起式	LH（LH-L）	有核・核 2 拍目
第 5 類	LF（LH-L）	有核・核 2 拍目		

このようなアクセント変化は、大阪府をはじめとして、京都府、奈良県、兵庫県、三重県といった地域で確認されている。和歌山県も京阪式アクセント地域に属し、過去には北部に位置する和歌山市や、古いアクセントを保持しているとされる田辺市での調査は実施されているものの、その中間に位置する有田地方ではほとんどなされていないようである。そこで、本稿では、他の京阪式アクセント地域で共通してゆれが生じているとされる、2 拍名詞の第 4 類と第 5 類のアクセントに焦点を当て、有田地方においてもそのような変化が起きているか確認することを目的とする。また、類の統合が起きているとすれば、どのような過程を経て統合が成立したのか、世代別のアクセントを追っていくことで明らかにしたい。

---

[1] 山岡華菜子（2021）『環大阪湾地域におけるアクセント変化の研究』（ひつじ書房）

[2] アクセント核とはピッチの下がり目のことを指す。例えば、LHL であれば 3 拍目でピッチが下がっているため、アクセント核は 2 拍目にある。

[3] 高起式とは語の 1 拍目のピッチが高く始まるもの、低起式とは 1 拍目のピッチが低く始まるものを指す。

なお、本稿で用いる表記は以下の通りである。

「H」：語の中で相対的にピッチが高いもの

「L」：語の中で相対的にピッチが低いもの

「F」：1 拍の中でピッチが下降するもの（拍内下降）

「-」（ハイフン）：語の境界

「H…」：高起式述語

「L…」：低起式述語

「X 類単独」：第 X 類に属する名詞を単体形で発音する形式（X は数字）

「X 類＋助詞」：第 X 類に属する名詞に助詞が続く形式

「X 類＋高起」：第 X 類に属する名詞に高起式述語が直接続く形式

「X 類＋低起」：第 X 類に属する名詞に低起式述語が直接続く形式

2. 先行研究

2.1　金田一語類について

金田一春彦（1974）は、『類聚名義抄』をはじめとする過去のアクセント資料を検討し、アクセントについて、ある型に変化が起きたときには、その型に属する語がそろって同じ方向に変化するという規則性があることを指摘した。これにより、ある語の過去のアクセントを推定する場合に、直接その語のアクセントが分からなくとも、現在同じ型を持つ語がその時代にどのようなアクセントであったかを知ることで、推測することが可能となった。

そこで、金田一は、過去のアクセントを推定する手がかりとなることを目的として、当時の諸方言で同じ型に属している語を「類」の語と呼称し、1 拍から 3 拍の日常語を「類」に分けた、いわゆる「金田一語類」を提唱した。

金田一によると、本稿で扱う 2 拍名詞は、京阪式アクセントでは**表 1** のように表される。第 2 類と第 3 類が統合しており、実質的には 4 つの類に分かれている。中でも、第 5 類語は他の類のアクセントとは様相の異なる、「拍内下降」と呼ばれる音調を持つ。拍内下降とは、1 拍の中でピッチの下降があり、京阪式アクセントに特有の現象である。

【表 1　京阪式アクセントにおける 2 拍名詞（金田一（1974）pp.63-65 参照）**】**

類	語例	単体（助詞付）
第 1 類	飴、牛、梅、風…	HH（HH-H）
第 2 類	石、岩、音、川…	HL（HL-L）
第 3 類	足、犬、家、色…	HL（HL-L）
第 4 類	息、糸、海、肩…	LH（LL-H 又は LH-H）
第 5 類	秋、雨、声、猿…	LF 又は LH（LF-L 又は LH-L）

2.2　第４類と第５類の統合状況について

田原・村中（2000）は、1998 年に中河内地域に属する東大阪市で実施したアクセント調査から、第４類・第５類の統合の道筋を明らかにした。なお、この先行研究から約 25 年経過しているため、カッコ内の年代は現在に合わせて書き換えている。また、**表２・表３**のアクセント記号「D」は拍内下降、「・」は文節の切れ目を示している。

1）Ｖ類の伝統型 a が主流（７０代半ば以上）
2）Ｖ類の伝統型 a が減少、変わって伝統型 b が増加する（６０代半ば～70 代半ば）
3）Ｖ類の伝統型 a がなくなり、伝統型 b が減少、伝統型 c に移行する、同時に統合型が現れる。同時に中間型も存在する。Ⅳ類の統合型が現れ始める（50 代半ば～60 代半ば）
4）Ｖ類の統合型が圧倒的主流になる。Ⅳ類の統合型が一気に増え半数を超える（40 代半ば～50 代半ば）

【表２　東大阪市における第５類アクセント型（田原・村中（2000）p.278 より引用）**】**

形式	例	伝統型 a	伝統型 b	伝統型 c	中間型	統合型
単独	雨	LD	LD	LH	LH	LH
低起	雨・ふってるわ	LD・L	LH・L	LH・L	LH・L	LH・L
高起	雨・やんでるわ	LD・H	LD・H	LD・H	LH・H	LL・H
助高	雨が・やんでるわ	LHL・H	LHL・H	LHL・H	LHL・H	LHL・H

【表３　東大阪市における第４類アクセント型（田原・村中（2000）p.277 より引用）**】**

Ⅳ類	伝統型	中間型	統合型（新Ⅳ類）
単独	LH	LH	LH
低起	LH・L	LH・L	LH・L
高起	LL・H	LL・H	LL・H
助低	LLH・L	LLH・L～LHL・L	LHL・L
助高	LLL・H	LLL・H～LHL・H	LHL・H

すなわち、類の統合過程におけるアクセント変化は、第５類の拍内下降がまず「5 類＋低起」で減少し、続いて「5 類単独」で減少し始め、それに追随して「5 類＋高起」でも減少することとなった。その結果、「5 類＋高起」が第４類と同じ LL-H となる統合型が発生し、同時に「４類＋助詞」のアクセントにも変化が生じたのだと分析している。

また、岸江・村田（2012）は、岸江が 1980 年後半に大阪市で実施したアクセント調査をもとに、大阪市における「4 類＋助詞」の音調型の変化と「5 類単独」での拍内下降の消滅時期を明らかにした。さらに、2011 年から 2012 年にかけて実施した大阪府・奈良

県・三重県アクセントグロットグラム調査から、1 府 2 県でアクセント変化の時期の差に言及した。2 つの調査結果をもとに、京阪式アクセント地域における第 4 類・第 5 類のアクセント変化の時期をまとめると、**表 4** のようになる。カッコ内は調査実施時期を示す。

【表 4　京阪式アクセント地域における第 4・5 類のアクセント変化の時期】

	第 4 類の LH-L 化	第 5 類の拍内下降消滅
大阪府摂津地域（1980）	S36～S39 生まれ	S24～S33 生まれ
大阪府河内地域（2011～2012）	S38～S57 生まれ	S28～S37 生まれ
奈良県（2011～2012）	S58～H4 生まれ	S48～S57 生まれ
三重県伊賀市以西（2011～2012）	S48～H4 生まれ	S48～S57 生まれ

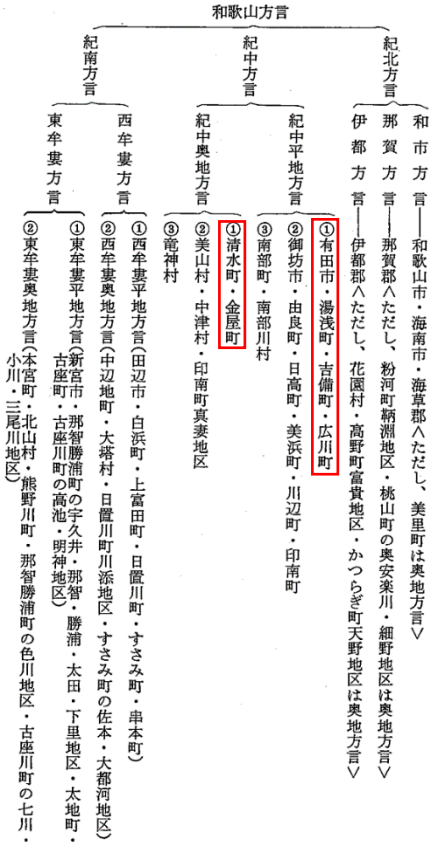
大阪市内（摂津地域）では、他地域に先駆けて第 4 類の LH-L 化が進行しており、奈良県や三重県とはアクセント変化の時期におよそ 10～20 年の差があることを明らかにした。この結果に加え、中井（1988）による旧京都市内のデータを参照し、第 4 類の第 5 類統合形 LH-L 型が、大阪市内で誕生したのち、河内地域から京都府や奈良県といった周辺地域に伝播したと考察している。また、いずれの地域においても、第 4 類の LH-L 化の前に第 5 類の拍内下降が消滅していることから、二つの事象は連動していると指摘した。

３．調査概要

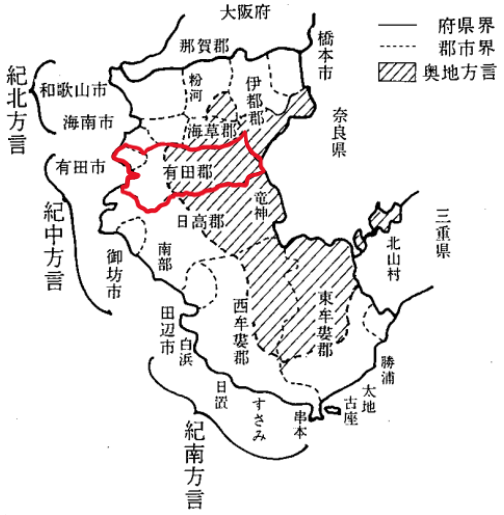
調査期間：2024 年 9 月～2025 年 1 月

調査地域：対象としたのは、和歌山県の有田地方である。有田地方とは、有田市、有田郡有田川町、有田郡湯浅町、有田郡広川町の 1 市 3 町からなる地域である。地理的には和歌山市と田辺市の中間地点に位置する。村内（1982）は、和歌山県の方言区画を**図 1・2** のように示している。今回の対象範囲を筆者が赤枠で囲った。

なお、2004 年から 2006 年にかけて市町村合併が行われたため、現在の市町村境界線とは異なるところもある。今回調査対象となっている有田川町は、2006 年 1 月に金屋町・吉備町・清水町が合併してできた町である。



【図 1 和歌山県方言区画】

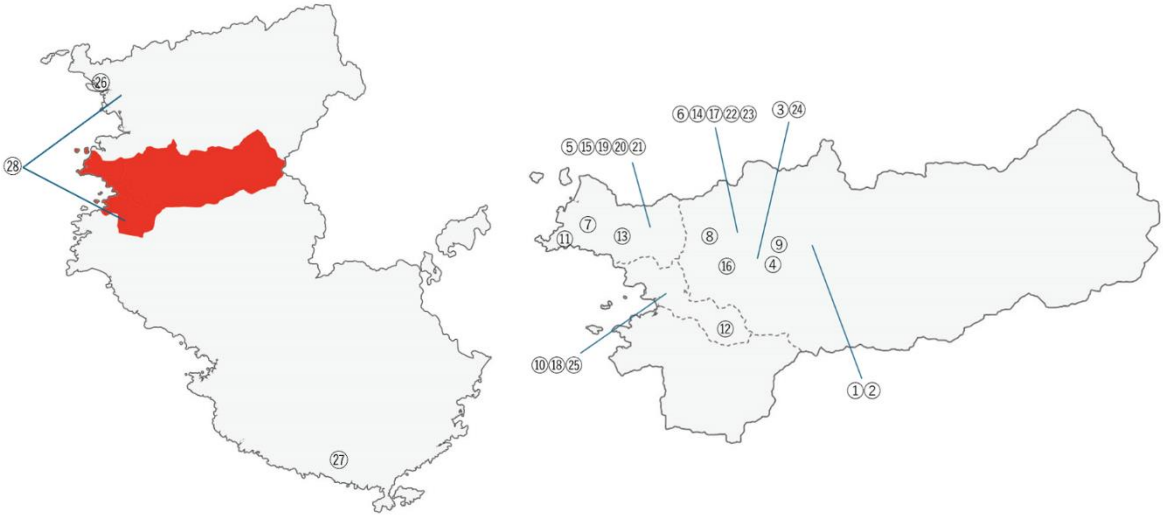


【図 2 和歌山県方言区画地図】

調査対象者：有田地方で生まれ育った話者を調査対象とする。なお、調査協力者を募る際には言語形成期（15 歳まで）を有田地方で過ごしたことを条件とし、男女は問わなかった。可能な限り現在の住まいも有田地方である話者に協力を依頼したが、数名、和歌山県の他地域や大阪府に在住の者も含まれる。また、調査後に条件に合致していないと判明した 3 名（話者㉖～㉘）に関しては、データを提示はするものの、考察等の段階では除いて論を進めることとする。

よって、本調査のインフォーマントは、16～77 歳の 2 5 名である。各世代の人数は、70 代 3 名、60 代 2 名、50 代 9 名、40 代 3 名、20 代 3 名、10 代 5 名となっている。30 代のみ調査が叶わなかった。なお、インフォーマントの詳細は以下のとおりである。

番号	生育地	生年（年齢[4]）	性別	番号	生育地	生年（年齢）	性別
①	有田川町青田	S22（77 歳）	男	⑮	有田市宮原町	S50（49 歳）	女
②	有田川町青田	S25（74 歳）	女	⑯	有田川町下津野	S52（47 歳）	女
③	有田川町徳田	S28（71 歳）	女	⑰	有田川町船坂	S52（47 歳）	女
④	有田川町中井原	S33（66 歳）	女	⑱	湯浅町湯浅	H12（24 歳）	女
⑤	有田市宮原町	S37（62 歳）	女	⑲	有田市宮原町	H14（22 歳）	女
⑥	有田川町船坂	S47（52 歳）	女	⑳	有田市宮原町	H14（22 歳）	女
⑦	有田市箕島	S47（52 歳）	男	㉑	有田市宮原町	H18（19 歳）	女
⑧	有田川町大谷	S47（52 歳）	男	㉒	有田川町船坂	H18（19 歳）	男
⑨	有田川町小川	S47（52 歳）	男	㉓	有田川町船坂	H19（18 歳）	男
⑩	湯浅町湯浅	S47（52 歳）	女	㉔	有田川町徳田	H19（17 歳）	女
⑪	有田市宮崎町	S47（52 歳）	男	㉕	湯浅町湯浅	H21（16 歳）	女
⑫	湯浅町山田	S48（51 歳）	女	㉖	和歌山市湊	S43（56 歳）	女
⑬	有田市	S49（50 歳）	女	㉗	串本町和深	S47（52 歳）	女
⑭	有田川町船坂	S49（50 歳）	男	㉘	広川町・和歌山市	H2（34 歳）	女



【図 3　調査協力者生育地】

[4] 2025 年 1 月 31 日時点

調査方法： 本調査は、調査票（本稿末尾に掲載）を用いた読み上げ形式で行った。基本的には一人ずつ対面で調査を実施したが、話者⑤⑰㉒㉓については、通話をつないで遠隔で実施した。また、話者①と③、②と⑬はそれぞれ調査に同席した。

語彙：調査する語彙は、2 拍名詞を対象とした。語彙を選択するにあたっては、『国語学大辞典』（1980）に掲載されている日本語アクセント類別語彙表[金田一語類]を参考に、第 1 類、第 2 類、第 3 類からそれぞれ 2 語ずつと、第 4 類、第 5 類からそれぞれ 10 語ずつ選択した。語彙は、どの世代の話者も日常的に使用例があるであろうものを抽出するようにした。

調査語彙と語類の対応は以下のとおりである。

第 1 類　飴、牛
第 2 類　石、音
第 3 類　足、犬
第 4 類　針、息、空、肩、箸、松、数、船、海、中
第 5 類　井戸、窓、秋、鍋、蜘蛛、鶴、猿、声、雨、春

全ての類に共通して、❶名詞単体、❷名詞＋助詞＋高起式述語、（助詞は「が」又は「を」）❸名詞＋助詞＋低起式述語の 3 パターンで読み上げてもらった。また、第 4 類と第 5 類のみ、❹名詞＋高起式述語、❺名詞＋低起式述語の 2 パターンも追加で読み上げてもらった。本調査では、一般的な京阪式アクセントで高起式、低起式それぞれに該当する述語を選択した。

なお、調査票を作成する際には、読み上げる順序によってアクセントに影響が出ないようにするため、同一の類に属する語が連続しすぎないように注意した。

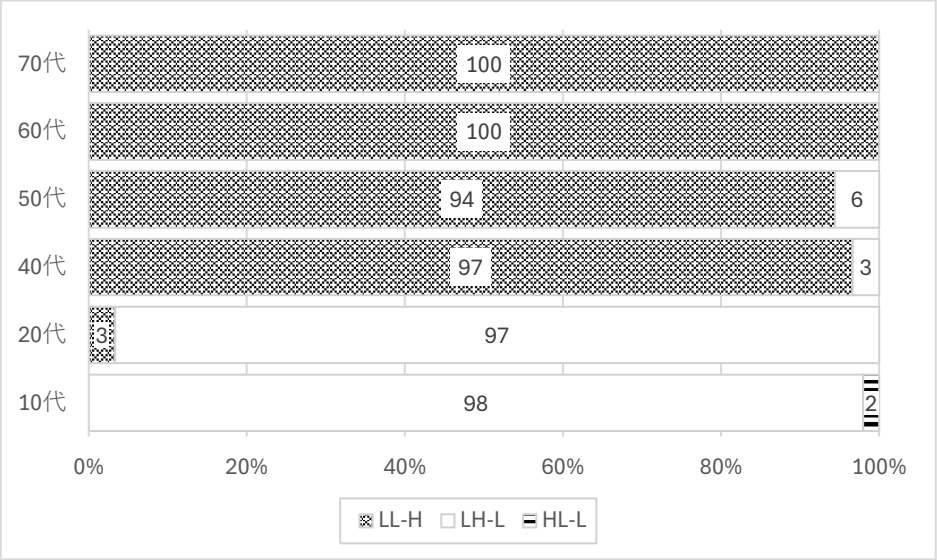
４．調査結果

話者㉖～㉘も含めた全員のアクセントは、本稿末尾の資料 2～4[5]にまとめてある。適宜参照されたい。

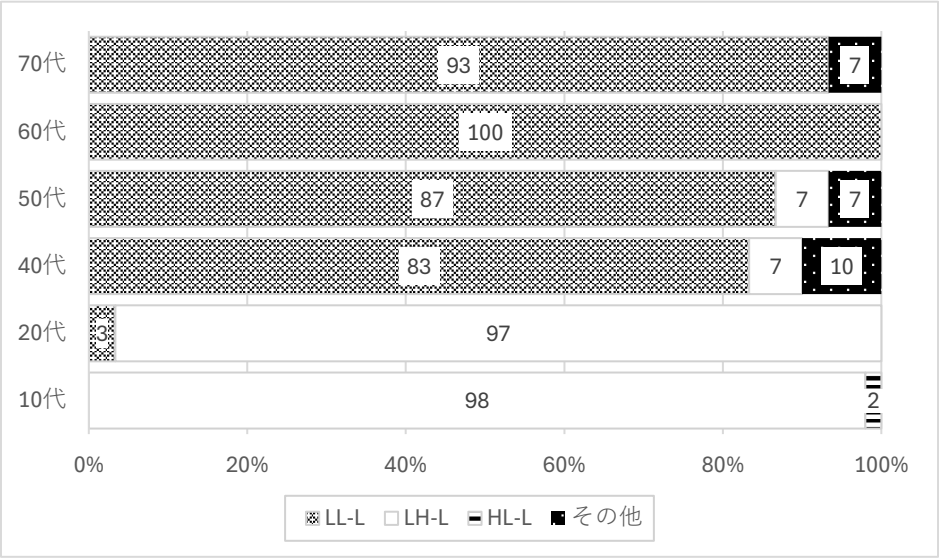
以下では、特に世代差が見られた「4 類＋助詞」「5 類単独」「5 類＋述語」の形式について詳しく報告する。

[5] 資料で空欄になっている箇所は、読み間違いにより正しいアクセントのデータが得られなかったものである。

4.1　4 類名詞＋助詞



【図 4　「4 類＋助詞＋低起式」世代別の音調割合】



【図 5　「4 類＋助詞＋高起式」世代別の音調割合】

4 類名詞について、助詞付きのとき、高年層・中年層と若年層とではアクセントに明確な違いが見られた。**図 4・図 5** は、助詞付の 4 類語の音調型の割合を世代ごとに示したグラフである。

60 代以上の話者は、助詞の後に低起式の述語が続く場合には「4 類＋助詞」部分を LL-H と発音した。高起式の述語が続く場合にはアクセントが LL-L となるが、全体の傾向は変わらなかった。これらは京阪式の伝統的なアクセントとされている。

40 代・50 代の話者についても概ね同じ傾向が見られたが、稀に異なったアクセントが見られることもあった[6]。語彙によってアクセントが異なるということはほとんどないが、唯一「中を覗く/見る」のみ他の語彙とは異なる様相を呈している。中年層 12 名中 7 名が、「中を」を従来のアクセントではない LH-L で発音した。なお、このうち話者⑥は「中を覗く」を LL-L、話者⑮は「中を見る」を LL-H で発音しており、片方は従来のアクセントのままであった。

このことについては、中井（1988）が、京都旧市内での調査において、「中」「外」「今」などの「時間・空間を示す 4 類語」が他の 4 類語と比較して早く LH-L 化が進行していることを指摘している。中井は、拍内下降を完全に持つ老年層（伝統的な京阪式アクセント保持者）でも、「中」などの語に付属語が付くと LH-L 型で発音することがあり、このことが 4 類・5 類の類の混乱に拍車をかけたと推察している。今回の調査結果も、同じような状態と言える。なぜ「時間・空間を示す」特定の語彙のアクセントが進んで変化を遂げたのかは不明であるが、「中」が助詞付の 4 類語のアクセント変化の先駆けとなっていることは明らかである。

以上のように、助詞付きの 4 類語のアクセントでは、高年層は安定して LL-H/LL-L であり、中年層は高年層と比較して若干の揺れはあるものの、従来の京阪式アクセントを引き継いでいると言えよう。

それに対し、平成 12 年以降に生まれた若年層では、後続の述語に関わらず LH-L が完全に定着している。伝統的な LL-H/LL-L の音調は、話者⑱に 1 例（「海が近い/見える」）見られただけであった。本稿冒頭でも述べたように、助詞付きの 4 類名詞の LH-L 化は、大阪市をはじめとした京阪式アクセント地域で既に報告されている。30 代の話者のデータが不足しているためにアクセント変化の境目が定かではないが、和歌山県の有田地方においても、少なくとも 20 代前半までの話者は LH-L のアクセントで安定していると言える。後節 5.2 では、助詞付きの 4 類名詞のアクセントが、従来のアクセントからこのような形に変化した背景について考察を行う。

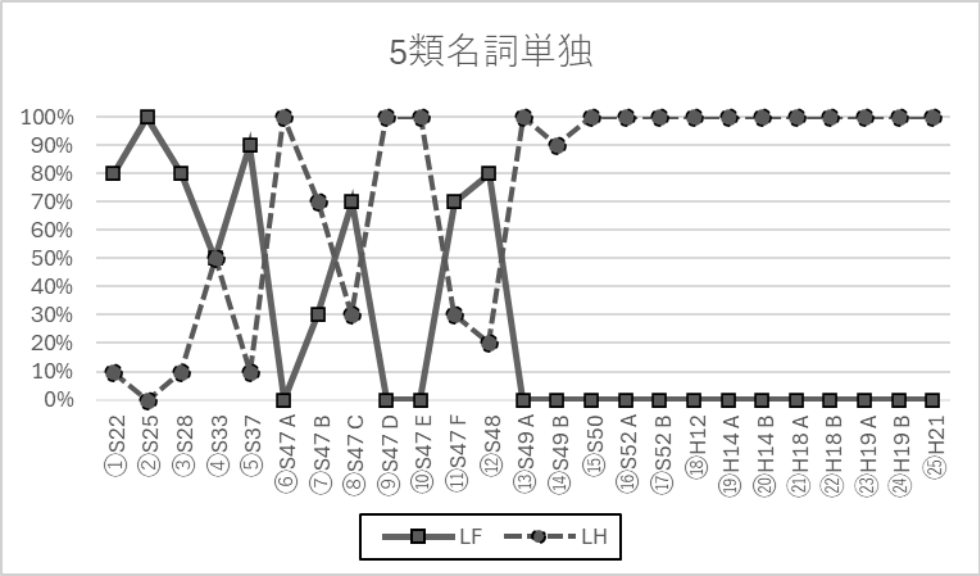
また、1 例のみではあるが、最も若い話者である話者㉕に共通語アクセントが見られることにも注目したい。話者㉕は、「松が枯れる/生える」をいずれも「HL-L」と発音した。この話者は、名詞単体の場合も「松」を HL 型で発音しており、共通語が京阪式アクセントに入り込んで留まっているとも見てとれる。今後さらに若い世代において、共通語

[6] LH-H や LL-H（高起式が後続する場合）といった音調である。これらは、読み上げる際に詰まった結果として通常のアクセントとは異なる形になったと推測される。話者⑨のみ、「空が曇る/見える」「肩を叩く」を「LH-L」と発音したが、これは直前の 5 類名詞「秋が終わる/来る」のアクセントに引っ張られて出たものであると考えられる。「肩をなでる」は「LL-H」と発音し、直前の「肩を叩く」と「ニュアンスが違う気がする」と違和感を覚えているような様子であった。

アクセントが広がりを見せるのか、動向を見守る必要がある。

4.2　5 類名詞

4.2.1　5 類名詞単独



【図 6　「5 類単独」の音調型の世代変異】

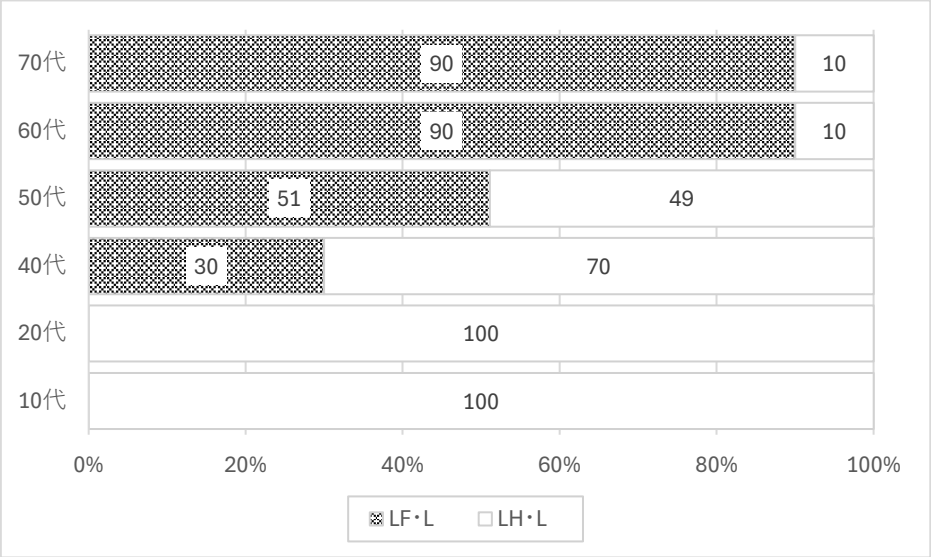
図 6 は、「5 類単独」の発話結果を左から年齢の高い順に示したものである。実線で示しているのが拍内下降、点線で示しているのが拍内下降が消滅した LH の音調である。

単体で発音した場合、60 代以上のすべての話者に拍内下降が確認できた。話者④を除いた 60・70 代 4 名は、5 類名詞の 8 割以上を拍内下降を伴った形で発音した。なお、話者④についても、5 割の語に拍内下降が見られた。

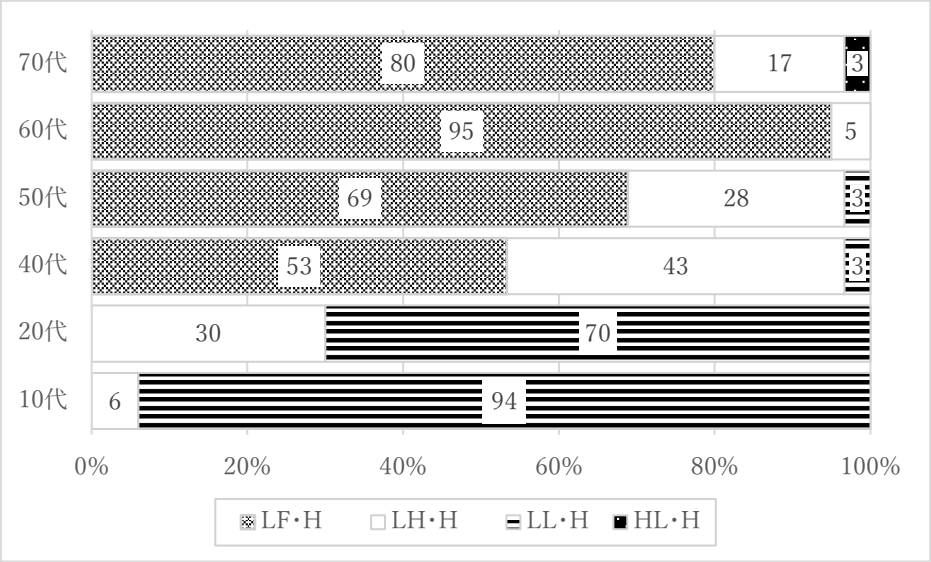
50 代の話者では、個人差が顕著であった。3 名には 7 割以上の語に安定して拍内下降が見られたが、その他 6 名については、拍内下降がほとんどの語で消滅し、代わりに 4 類名詞と同様の LH のアクセントであった。なお、拍内下降が安定して見られた話者には、特に共通項（生育地や性別）は見られなかった。

40 代以下（昭和 50 年以降の生まれ）には拍内下降が全く見られなかった。彼らは「5 類単独」をすべて LH のアクセントで発音し、単体では 4 類名詞と区別がなかった。

4.2.2　5 類名詞＋述語



【図 7　「5 類＋低起式」世代別の音調割合】



【図 8　「5 類＋高起式」世代別の音調割合】

概ね世代が下るにつれて拍内下降の割合が小さくなっているものの、後続の述語に関わらず、40 代以上のすべての話者に 1 例以上拍内下降が確認できた。よって、名詞単体では拍内下降が見られなかった 40 代の話者においても、述語を伴って発する場合にはまだ拍内下降が残存していると言ってよいだろう。なお、40 代以上の話者は、述語が直接続く場合には名詞部分を LF か LH で発音することが多い。特に、高起式述語が後続する場合、述語の 1 拍目のピッチが名詞 2 拍目より若干低くなり、LH-M…（M は L と H の中間のピッチ）のようになる。

また、60 代の話者③のみに HL-H が見られたが、これは「蜘蛛」を「雲」のアクセントと混乱して生じたものと思われる。

ところで、**図 7・8** を比較すると、40 代～60 代では低起式述語が後続する環境の方が、拍内下降の割合が小さいことがわかる。これは、低起式述語が後続する場合の方が、拍内下降が消失しやすい傾向にあるということである。5 類名詞の拍内下降消滅の順序については、後節 5.1 で詳しく触れる。

拍内下降が残る中・高年層に対して、20 代以下の若年層では拍内下降が全く見られなかった。その代わりに、後続する述語が低起式の場合は名詞部分の音調が LH、高起式の場合には LH[7]か LL になっている。LH 型は中・高年層でもある程度見られたが、LL 型は「春終わる」を読み上げたときに中年層 4 名に見られたのみで、基本的には中・高年層では使用されてこなかった。

なお、このアクセントは、「針抜く」（LL-HH）「船進む」（LL-HHH）などの、4 類名詞に高起式の述語が後続したときのアクセントと同じである。中・高年層では、「5 類＋高起」を LF-H…又は LH-H…と発音し、「4 類+高起」を LL-H…と発音することで類の識別が保たれている。逆に、若年層においては、名詞の直後に述語が続く環境ではどちらも LL-H…と発音し、第 4 類と第 5 類のアクセントが区別されていないということになる。

５．考察

5.1.有田地方における類の統合過程

2.2 で述べたように、田原・村中（2000）は第 4・5 類の統合の過程を論じており、「4 類＋助詞」「5 類単独」「5 類＋高起」「5 類＋低起」の 4 パターンをアクセント変化が生じ始めた順に並べると、以下のようになる。

「5 類＋低起」＞「5 類単独」＞「5 類＋高起」＞「4 類＋助詞」

ここで、有田地方のアクセント調査の結果から、各世代の 5 類名詞の拍内下降率を産出すると**表 5** のようになる。拍内下降の消滅時期が早いほどアクセント変化が進行していると考えられる。よって、拍内下降率が低い発話パターンほど、先にアクセント変化が生じたと推察できる。

拍内下降が残る 40～70 代の拍内下降率を見ると、40～60 代に共通して「5 類単独」が

[7] 20 代の話者⑳のみ「LH-H…」と発音することが多いが、この話者は「LL-H…」のアクセントが予想される「4 類+高起」の場合にも、「LH-H…」と発音する傾向にあるため、例外として補足しておく。

最も数値が低く、次いで「5 類＋低起」が低く、「5 類＋高起」が最も高くなっていることがわかる。

【表 5　5 類名詞の各発話パターンでの拍内下降率】

	70 代	60 代	50 代	40 代	20 代	10 代
5 類単独	87%	70%	28%	0%	0%	0%
＋低起式	90%	90%	51%	30%	0%	0%
＋高起式	80%	95%	69%	53%	0%	0%

拍内下降率が低いものほど先に変化が生じたと仮定すると、有田地方において、第 5 類のアクセント変化の順序は以下の通りとなる。

「5 類単独」＞「5 類＋低起」＞「5 類＋高起」

有田地方では、拍内下降の消滅がまず 5 類名詞単体での発音時に現れたということになる。これは、田原・村中（2000）で述べられていた東大阪市のアクセント変化の順序とは少し異なる。東大阪市とその周辺地域でアクセント変化の順序が異なることについて、淡路島のアクセントの実態を調査した山岡（2021）は次のように述べている。

> 本章でこれまでみてきた地域は「近畿周辺部」にあたるため、岸江・村田（2012）の述べるように[8]中央部から伝わって変化が生じた可能性を考慮する必要がある。そして、仮にそのように捉えるとすれば、田原・村中（2000）が示した「統合の道筋」と異なる順序で変化する理由について説明がつくであろう。その場合、中央部において変化がある程度進んだところでその影響をうけたために、変化する順序に地域差がみられたということになる。（pp.38～39）

有田地方においても、同様に考えると説明がつく。田原・村中（2000）によれば、東大阪市では現在の 60 代半ば～70 代半ばにあたる話者で「5 類＋低起」の変化が起こり、その後単体形でも拍内下降が消失し始める。50 代半ば～60 代半ばの世代で「5 類＋低起」・「5 類単独」両方の拍内下降が消滅したアクセントが定着してきた時期に有田地方にも伝播し、50 代の拍内下降消滅が進行したのだと考えられる。

また、岸江・村田（2012）が、大阪市周辺のいずれの地域においても、第 4 類の LH-L 化と第 5 類の拍内下降の消滅が連動して起こっていることを指摘したが、有田地方においても同様のことが言える。**4.2.1** の**図 6** からも明らかなように、「5 類単独」の拍内下降は

[8] 岸江・村田（2012）は、大阪市の周辺地域のアクセント変化について「4 類と第 5 類の統合の発生について大阪市内での内的要因による変化、つまり第 5 類の拍内下降の消失および第 4 類の LHL への類推変化がまず起こり、それが近畿周辺部まで拡散したと解釈する」と述べている。

40 代以下（昭和 50 年以降の生まれ）には全く見られず、50 代では人によって根強く残る人とそうでない人とが混在している。まさに 50 代が「5 類単独」の拍内下降消滅の過渡期であると考えられる。岸江・村田（2012）によれば、奈良県においては現在の 43〜52 歳にあたる話者で拍内下降が消滅している。よって、40 代以下で拍内下降が完全に消滅している有田地方での変化は、およそ奈良県での変化と同時期である。

「4 類＋助詞」のアクセントは、40 代後半までは「中を」を除いてほとんどが伝統的な LL-H/LL-L であるが、20 代以下ではすでに新たな音調型 LH-L が定着している。よって、助詞付き 4 類名詞の LH-L 化の過渡期は 30 代前後であると推察される。これは「5 類単独」の拍内下降消滅の時期から少し遅れており、大阪府や奈良県で見られたのと同じ特徴である。すなわち、有田地方の第 4 類のアクセント変化は、他の地域同様、5 類の拍内下降の変化に影響を受けて生じたものであると言える。

これに加え、「5 類＋高起」での拍内下降消滅が、**表 5** より 40 代で既に進行していることを踏まえると、「5 類＋高起」での拍内下降消滅＞「4 類＋助詞」の LH-L 化の前後関係になると推察される。

また、「5 類＋高起」の拍内下降が消滅した結果、アクセントが LL-H…となり、「4 類＋高起」のアクセントと全く同じになる。この現象と「4 類＋助詞」の LH-L 化の両方が生じた末、第 4・5 類が完全に統合する。本調査から、有田地方では、10 代で完全に第 4・5 類の統合が完了したとみてよいかと思われる。

なお、「5 類＋高起」の LL-H…化と、「4 類＋助詞」の LH-L 化の前後関係は、30 代付近のデータが不足しているために本論文では明確にすることができない。さらにインフォーマントを増やして調査する必要がある。

以上のことを踏まえて、有田地方における第 4・5 類の統合過程をまとめると、以下のようになる。

Ⅰ「5 類単独」拍内下降が減少
Ⅱ「5 類＋低起」拍内下降が減少、「5 類単独」拍内下降が一部で消滅
Ⅲ「5 類＋高起」拍内下降が減少
Ⅳ「5 類＋高起」LL-H…化、「4 類＋助詞」LH-L 化

5.2 「4 類＋助詞」LH-L 化の背景

「4 類＋助詞」のアクセント変化（LL-H＞LH-L）は、2 つの要因から生じたと考えられる。①第 4 類と第 5 類の単体形のアクセントが同じになったことで、類の混乱が起こりやすくなったことと、②「4 類単独」のアクセントが LH であることからの類推である。

1 つ目の要因から述べる。岸江・村田（2012）が指摘したように、「4 類＋助詞」LH-L 化と第 5 類の拍内下降消滅は連動している。伝統的な京阪式アクセントでは「4 類単独」

は LH、「5 類単独」は LF と単体形に区別があった。それが、第 5 類の拍内下降が消滅して「5 類単独」が LH のアクセントを持ったことで混乱し、結果として助詞付のアクセントにも影響を及した。すなわち、「5 類単独」の LH 化が「4 類＋助詞」のアクセント変化を引き起こす契機であったと言える。

類の区別が薄れた結果、2 つの類の助詞付のアクセントも同じ型に統一するように変化を始める。ここで、どのようにして LH-L 型が選択されるというアクセント変化が生じたのかを考えなければならない。

金田一（1974）は、アクセント変化には「音韻変化」に属するものと、「形態変化」に属するものの 2 パターンが存在するとし、[9]「形態変化」について以下のように述べている。（なお、○は低いピッチ、●は高いピッチを示している。）

> 東京で、今子供たちは、「白かった」という語をシ●ロ○カ○ッ○タ○と言い、「白ければ」をシ●ロ○ケ○レ○バ○と言うことを注意している。これは、シ●ロ○イ○といふ終止形や、他方、ア●カ○カ○ッ○タ○、ア●カ○ケ○レ○バ○という形への類推にちがいない。もし、これが一時的なものではなくて、●シ○ロ○カ○ッ○タ○＞シ●ロ○カ○ッ○タ○という変化が実現すれば、それは類推による変化の例である。これは形態変化の一種である。（pp.98-99）

つまり、東京において、「白い」（シ●ロ○イ○）と「白かった」（●シ○ロ○カ○ッ○タ○）は語幹部分が「シロ」で同じにもかかわらず、アクセントが異なっていた。それが、子どもの間で、終止形のアクセントがシ●ロ○イ○であることや似た形容詞のアクセントから類推が働き、新たにシ●ロ○カ○ッ○タ○というアクセントが生じた、ということである。

京阪式アクセントの「4 類＋助詞」においても、同じような変化が起こっているのではないかと考えられる。伝統的な京阪式アクセントでは、「4 類＋助詞」は LL-H（高起式後続：LL-L）であり、名詞部分が単体形のアクセント LH と異なっていた。これは、助詞が付くことによって名詞部分のアクセントが変化するということであり、語のアクセントとしては不安定な状態である。そこで、金田一（1974）が述べたような類推によるアクセント変化が生じたのではないだろうか。「4 類単独」が LH であることへの類推から、助詞付のアクセントを LH-L とする話者が増加し、次第に定着していったと考えられる。

以上の「4 類＋助詞」のアクセント変化についてまとめる。まず、「5 類単独」の拍内下降が消滅することで、「5 類単独」が新たに LH のアクセントを持つことになった。元から

---

[9] 金田一（1974）によれば、語音変化には音韻変化と形態変化の 2 種類が存在する。音韻変化とは、無造作な発音が、聞き手によって他の発音のように聞こえることを契機として起こるもので、規則的な変化を起こす性質がある。例えば、「春」「花」などの《ハ》が、《pa》＞《ϕa》＞《ha》と変化したのは音韻変化とされる。それに対し、形態変化は、人間の心理が働いた結果として起こるものであり、「当つる」＞「当てる」のような下二段活用の下一段化は、使用度の高い連用形のアテ（当て）という形への心理作用（「類推」）が働いて生じたとして、これに分類される。

「4 類単独」が同じ LH のアクセントを持っていたため、4 類と 5 類で類の混乱が生じ、2 つの類でアクセントが異なる助詞付の形が不安定となった。そこで、単体形のアクセント LH からの類推が働き、「5 類＋助詞」と同じ LH-L 型に落ち着いたというわけである。

5.3 「5 類＋高起」LL-H…型の不安定性

本節では、「5 類＋高起」のアクセント変化を整理しつつ、今後高起式述語が後続する環境下で起こりうるアクセント変化について論じたい。

「5 類＋高起式」のアクセントが、拍内下降を失ったことで、LF-H…＞LH-H…＞LL-H…と変化してきたことは調査結果で指摘したとおりである。4.2.2 で言及したように、LH-H…は厳密には名詞 2 拍目と述語 1 拍目のピッチが異なる。名詞 2 拍目よりも述語 1 拍目の方が低く、田原・村中（2000）や武田（2009）に倣って、LH-M…（M は L と M の中間くらいのピッチ）と表記する方が話者の音調に沿っているかと思われる。

LF-H…と LH-M…は、音調的な特徴が似ている。ともに名詞の 1 拍目と 2 拍目で高低差があり、名詞と述語の切れ目でもピッチの変化がある。LF-H…から LH-M…の変化を考える。何らかの理由で 2 拍目の下降調が失われたが、名詞 1 拍目と 2 拍目でピッチが変わるという音調的特徴は引き継がれ、LH-H…という音調になった。その際、後続の述語との切れ目を明瞭にしようとする意識が働き、述語 1 拍目が前拍よりも若干低く発音されたのであろう。その結果、LH-M…という音調が生じたのだと考えられる。

LH-M…から LL-H…の変化を見ると、名詞部分のピッチの低-高の関係が消失し、2 拍目まで「低」のままになっている。その結果、名詞語末と述語頭の高低差がより大きくなり、語のまとまりが明瞭になった。

しかし、この「5 類＋高起」の LL-H…の安定性には疑問が残る。語のまとまりは明瞭にはなったものの、このアクセント型は、高起式述語が後続するときのみ名詞のアクセントが変化する状態であるからである。5.1 で述べたように「4 類＋助詞」の環境では LL-H＞LH-L の変化が進んでいる。若年層では完全に LH-L 型が完全に定着している点を踏まえると、名詞のアクセントを固定化することが型の安定化に寄与していると考えられる。そうであるならば、単体形では LH である 5 類語が、「5 類＋高起」の環境では LL になるというのは、語のアクセントとしては不安定なのではないだろうか。

ここで、若年層の「4 類＋高起」の様子に注目したい。**表 6** は、今回の調査結果のうち、10～20 代の「4 類＋高起」の音調を記したものである。若年層 4 名に、LH の音調が混在していることが分かる。話者⑳では特にその傾向が顕著である。

これは、切れ目を明瞭にして語としてのまとまりを保持しようとする意識と、語のアクセントを単純化しようとする動きとの間でせめぎあいが生じ、「4 類＋高起」のアクセントにゆれが生じている状態であると考えられる。つまり、この先も語のまとまりを保持す

ることが優先されれば、高起式述語が後続する環境での 4・5 類名詞のアクセントは LL で定着し、アクセントの単純化が優先されれば LH に移行すると推察される。そして、後者に関して、拍内下降を体系に持つ京阪式アクセント話者の感覚が、4・5 類名詞のアクセントの単純化を後押しするのではないだろうか。

アクセントを単純化すること、すなわち名詞部分を常に LH で固定することの弊害として、高起式述語が後続したときに LH-H…となり、語の切れ目が分かりにくくなることが挙げられる。しかし、京阪式アクセント話者の中には、後の高起式述語の頭をわずかに低めた LH-M…の音調が存在する。この LH-M…について、武田(2009)は、「拍内下降の特徴を代替する役割を果たす」音調であるとし、「拍内下降の音調を記憶している世代であるがゆえに使用できる微妙な音調であるのかもしれない」と述べている。つまり、1 拍の中のピッチの変化を捉える鋭敏な感覚が、LH-M…という微妙な音調を実現させているのである。そしてその感覚は、京阪式アクセント地域で育つ中で、上の世代が発する拍内下降に接してきた若年層にも備わっているのではないだろうか。LH-M…という音調の存在により、名詞と述語の切れ目が担保され、高起式述語が続いた場合でも名詞部分の LH の音調が許容できるのである。このような微妙な音調を扱う京阪式アクセント話者の感覚が後押しし、高起式述語が後続する環境での 4 類・5 類の名詞部分が LH 化する方向に動きつつあるのではないだろうか。

以上のことから、今回の調査で見られた、「4 類＋高起」における名詞部分の LH の音調は、「5 類＋高起」が一度は LL-H…で落ち着いたものの、その不安定さから、4 類も巻き込んで再度 LH-H…(LH-M…)に戻る、その前兆ともみることができる。しかしながら、現段階では若年層で「4 類＋高起」「5 類＋高起」に LH が見られる例は少ないため憶測の域を出ない。このことに関しては、さらに若い世代のアクセントの調査を待って結論づけるべきである。

【表 6　若年層における「4 類＋高起」の音調】

⑱（H12）	⑲（H14）	⑳（H14）	㉑（H18）	㉒（H18）	㉓（H19）	㉔（H19）	㉕（H21）
20代			10代				
LL	LL	**LH**	LL	LL	LL	**LH**	LL
LL	LL	**LH**	LL	LL	LL	LL	LL
	LL		LL	LL	LL	LL	LL
LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL
LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL
LL	**LH**	**LH**	LL	LL	LL	LL	HL
LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL
LL	LL	**LH**	**LH**	LL	LL	LL	LL
LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL
LL	LL	**LH**	LL	LL	LL	LL	LL

６．おわりに

本稿では、調査が手薄であった和歌山県有田地方の 2 拍名詞アクセントの実態を把握することを目的として、読み上げ式のアクセント調査を実施し、分析を行った。調査結果のうち、伝統的な京阪式アクセントから変化が見られたものを整理すると、以下のようである。

・「4 類＋助詞」について、20 代以下では LH-L 型が定着している

・「5 類単独」について、拍内下降の消滅の過渡期は 50 代であり、40 代以下では拍内下降が完全に消滅している

・「5 類＋低起」について、40・50 代では拍内下降のない LH-L…型も見られ、20 代以下では LH-L…型が定着している

・「5 類＋高起」について、20 代以下では LL-H…型が主流である

以上の調査結果より、他の京阪式アクセント地域で報告されている第 4 類と第 5 類の統合が、有田地方においても若年層で生じていることが確認できた。加えて、統合過程に関して、早くに統合が生じたとされる東大阪市とは変化の順序が異なることが明らかになった。有田地方では単体形の拍内下降が進んで消滅しており、第 5 類のアクセント変化の順序は、「5 類単独」＞「5 類＋低起」＞「5 類＋高起」であると言える。その後「4 類＋助詞」のアクセント変化が生じたことも、20 代・40 代のアクセントの実態から推察することができた。なお、30 代前後の話者のデータが不足しているため、「4 類＋助詞」LH-L 化と「5 類＋高起」LL-H…化の前後関係を特定するには至らなかった。

また、「4 類＋助詞」の LH-L 型と、「5 類＋高起」の LL-H…型について検討したが、この 2 点についてもまだ考察の余地があると考えている。

「4 類＋助詞」の LH-L 化については、「5 類単独」が LH となったのを契機に類の混乱が生じ、助詞付の形が不安定化する中で、単体形のアクセント LH への類推が働き、LH-L 型に着地したのだと考察した。現段階ではこの説が有力であるように思われるが、LH-L 化の過渡期と思われる 30 代のデータを分析すれば、違った変化の要因が見つかるかもしれない。

「5 類＋高起」の LL-H…化については、文環境によって名詞のアクセントが変化することの不安定性を指摘し、今後、LL-H…で落ち着いた「5 類＋高起」のアクセントが、第 4 類も巻き込んで再度 LH-H…に戻る可能性を提示した。その際、本調査で聞かれた LH-M…の音調に着目し、京阪式アクセント話者が持つ微妙なピッチの変化を察知する感覚が変化を後押しするのではないかと考察した。今のところ若年層では「4 類＋高起」「5 類＋高起」ともに LL-H…が主流ではあるが、この型がそのまま確固たるものとなるのか、アクセントの固定化が優先され元の型に戻るのか、さらに若い世代のアクセントの動向に注目したい。

【謝辞】
本研究の趣旨を理解し快く協力していただいた調査対象者の皆様に、心より感謝申し上げます。

７．参考文献

・亀井孝/大藤時彦/山田俊雄編（1963）『日本語の歴史 5 近代語の流れ』（平凡社）
・岸江信介/村田真実(2012)「京阪式アクセントにおける 2 拍名詞の類の統合状況と低起無核型の消失傾向－大阪・奈良・三重・徳島方言を中心に－」（『音声研究』,16 巻,3 号,pp.34-46）
・金田一春彦（1974）『国語アクセントの史的研究 原理と方法』（塙書房）
・金田一春彦（2005）『金田一春彦著作集　第九巻』（玉川大学出版）
・郡史郎（2011）「大阪市方言若年層の二拍名詞 4 類・5 類のアクセントについての一考察－特に文中でのふるまいに注目して－」（杉藤美代子編『音声文法』,くろしお出版,pp.229-249）
・国語学会編（1980）『国語学大辞典』（東京堂出版）
・真田信治（1987）「ことばの変化のダイナミズムー関西圏における neo-dialect について」（『言語生活』,429 号,pp.26-32）
・杉藤美代子/奥田恵子（1980）「中河内及び南河内における近畿アクセント○◯型発話の実態」（『大阪樟蔭女子大学論集』,17 号,pp.1-17）
・武田佳子（2009）「大阪方言アクセントにおける二拍 5 類語の現在：三世代話者の読み上げデータからのケーススタディ」（『阪大日本語研究』,21 号,pp.109-127）
・田原広史/村中淑子（2000）「大阪アクセントにおける二拍名詞Ⅳ類・Ⅴ類の統合について-20 代から 60 代までの実態-」（『20 世紀フィールド言語学の軌跡 徳川宗賢先生追悼論文集』変異理論研究会,pp.267～288）
・中井幸比古（1987・1988）「京都旧市内における若年層のアクセント（1）（2）」（『国語研究』,50・51 号,pp.1-26,pp.1-37）
・中井幸比古（1990）「大学生のアクセント（1）－近畿地方の中央式諸方言について（1）－」（『香川大学一般教育研究』,38 号，pp.17-52）
・松森晶子/新田哲夫/木部暢子/中井幸比古（2012）『日本語アクセント入門』（三省堂）
・村内英一（1982）「７ 和歌山県の方言」（飯豊毅一/日野資純/佐藤亮一『講座方言学 近畿地方の方言』、国書刊行会,pp.171-193）
・山岡華菜子（2021）『環大阪湾地域におけるアクセント変化の研究』（ひつじ書房）

資料１　アクセント調査票

①次の名詞を読み上げてください。

飴　針　息　井戸　窓　牛　秋　空

肩　鍋　石　音　箸　蜘蛛　鶴　松

足　猿　数　犬　声　雨　船　海　中　春

2

②次の短文を読み上げてください。

飴を買う。
飴をなめる。

針を抜く。
針を刺す。

息を吸う。
息を吐く。

井戸を塞ぐ。
井戸を掘る。

窓を拭く。
窓を閉める。

牛を育てる。
牛を飼う。

秋が終わる。
秋が来る。

空が曇る。
空が見える。

肩を叩く。
肩をなでる。

鍋を洗う。
鍋を作る。

石を蹴る。
石を投げる。

音を鳴らす。
音を出す。

箸を使う。
箸を持つ。

蜘蛛を追う。
蜘蛛を捕まえる。

3

鶴が飛ぶ。
鶴が逃げる。

松が枯れる。
松が生える。

足を運ぶ。
足をぶつける。

猿が鳴く。
猿が群れる。

数が減る。
数が増える。

犬を呼ぶ。
犬を飼う。

声を聴く。
声を出す。

雨が止む。
雨が降る。

船が進む。
船が出る。

海が近い。
海が見える。

中を覗く。
中を見る。

春が終わる。
春が来る。

4

③次の短文を読み上げてください。

針抜く	鍋洗う	声聴く
針刺す	鍋作る	声出す
息吸う	箸使う	雨止む
息吐く	箸持つ	雨降る
井戸塞ぐ	蜘蛛追う	船進む
井戸掘る	蜘蛛捕まえる	船出る
窓拭く	鶴飛ぶ	海近い
窓閉める	鶴逃げる	海見える
秋終わる	松枯れる	中覗く
秋来る	松生える	中見る
空曇る	猿鳴く	春終わる
空見える	猿群れる	春来る
肩叩く	数減る	
肩なでる	数増える	

5

資料２　調査結果（名詞単体）

	①（S22）	②（S25）	③（S28）	④（S33）	⑤（S37）	⑥（S47）	⑦（S47）	⑧（S47）	⑨（S47）	⑩（S47）	⑪（S47）	⑫（S48）	⑬（S49）	⑭（S49）	⑮（S50）	⑯（S52）	⑰（S52）	⑱（H12）	⑲（H14）	⑳（H14）	㉑（H18）	㉒（H18）	㉓（H19）	㉔（H19）	㉕（H21）	㉖（S43）	㉗（S47）	㉘（H2）
	70代			60代		50代									40代			20代			10代							
飴	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	LH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH
牛	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH	HH
石	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL
音	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL
足	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL
犬	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL	HL
針	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
息	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
空	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
肩	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
箸	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
松	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	HL	LH	LH	HL
数	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
船	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LF	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
海	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
中	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
井戸	**LF**	**LF**	**LF**	**LF**	**LF**	LH	LH	**LF**	LH	LH	**LF**	**LF**	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LL	LH	LH
窓	**LF**	**LF**	**LF**	LH	**LF**	LH	**LF**	**LF**	LH	LH	**LF**	**LF**	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
秋	**LF**	**LF**	**LF**	**LF**	**LF**	LH	LH	**LF**	LH	LH	LH	**LF**	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
鍋	**LF**	**LF**	**LF**	**LF**	**LF**	LH	LH	**LF**	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
蜘蛛	HL	**LF**	HL	LH	**LF**	LH	**LF**	**LF**	LH	LH	**LF**	**LF**	LH	HL	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
鶴	**LF**	**LF**	**LF**	LH	**LF**	LH	**LF**	LH	LH	LH	**LF**	**LF**	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
猿	**LF**	**LF**	**LF**	**LF**	**LF**	LH	LH	LH	LH	LH	**LF**	**LF**	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
声	**LF**	**LF**	**LF**	LH	**LF**	LH	LH	**LF**	LH	LH	**LF**	**LF**	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
雨	**LF**	**LF**	**LF**	**LF**	**LF**	LH	LH	LH	LH	LH	**LF**	**LF**	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
春	LH	**LF**	LH	LH	LH	LH	LH	**LF**	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH

資料３　調査結果（名詞＋助詞）

	①（S22）	②（S25）	③（S28）	④（S33）	⑤（S37）	⑥（S47）	⑦（S47）	⑧（S47）	⑨（S47）	⑩（S47）	⑪（S47）	⑫（S48）	⑬（S49）	⑭（S49）	⑮（S50）	⑯（S52）	⑰（S52）	⑱（H12）	⑲（H14）	⑳（H14）	㉑（H18）	㉒（H18）	㉓（H19）	㉔（H19）	㉕（H21）	㉖（S43）	㉗（S47）	㉘（H2）
	70代			60代		50代									40代			20代			10代							
飴を買う。	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH
飴をなめる。	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH
牛を育てる。	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH
牛を飼う。	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH	HHH
石を蹴る。	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL
石を投げる。	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL
音を鳴らす。	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL
音を出す。	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL
足を運ぶ。	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL
足をぶつける。	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL
犬を呼ぶ。	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL
犬を飼う。	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL	HLL
針を抜く。	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLH	LLL	LLL	LLL	LLH	LLL	LLL	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	LLL	**LHL**
息を吸う。	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	LLL	**LHL**
空が曇る。	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LHH	LLL	**LHL**	LLL	LLL	LLL	LLH	LLL	LLL	LLH	LLL	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**
肩を叩く。	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	**LHL**	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLH	LLL	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	LLL	**LHL**
箸を使う。	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	LLL	LLL	LLL	**LHL**
松が枯れる。	LLL	LLH	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	HLL	**LHL**	LLL	**LHL**	**LHL**
数が減る。	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLH	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLH	LLL	LLL	LLL	LLL	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**
船が進む。	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLH	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	LLL	LLL	LLL
海が近い。	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	LLL	**LHL**	**LHL**
中を覗く。	LLH	LLL	LLL	LLL	LLL	LLL	**LHL**	LLL	LLL	**LHL**	LLL	LLL	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	LLL	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	LLL	**LHL**	**LHL**
針を刺す。	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	LLH	**LHL**	**LHL**
息を吐く。	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	LLH	**LHL**	**LHL**
空が見える。	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	**LHL**	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**
肩をなでる。	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	LLH	**LHL**	**LHL**
箸を持つ。	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	LLH	**LHL**	**LHL**
松が生える。	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	HLL	**LHL**	LLH	**LHL**	**LHL**
数が増える。	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**
船が出る。	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	LLH	**LHL**	**LHL**
海が見える。	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	LLH	**LHL**	**LHL**
中を見る。	LLH	LLH	LLH	LLH	LLH	**LHL**	**LHL**	LLH	LLH	**LHL**	LLH	LLH	**LHL**	**LHL**	LLH	**LHL**	LLH	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	**LHL**	LLH	**LHL**	**LHL**
井戸を塞ぐ。	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL
窓を拭く。	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL
秋が終わる。	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL
鍋を洗う。	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL
蜘蛛を追う。	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	HLL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	HLL
鶴が飛ぶ。	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL
猿が鳴く。	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL
声を聴く。	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL
雨が止む。	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL
春が終わる。	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL
井戸を掘る。	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL
窓を閉める。	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL
秋が来る。	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL
鍋を作る。	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL
蜘蛛を捕まえる	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	HLL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL
鶴が逃げる。	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL
猿が群れる。	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL
声を出す。	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL
雨が降る。	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL
春が来る。	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL	LHL

資料４　調査結果（名詞＋述語）※名詞部分のみ表記している。

	①（S22）	②（S25）	③（S28）	④（S33）	⑤（S37）	⑥（S47）	⑦（S47）	⑧（S47）	⑨（S47）	⑩（S47）	⑪（S47）	⑫（S48）	⑬（S49）	⑭（S49）	⑮（S50）	⑯（S52）	⑰（S52）	⑱（H12）	⑲（H14）	⑳（H14）	㉑（H18）	㉒（H18）	㉓（H19）	㉔（H19）	㉕（H21）	㉖（S43）	㉗（S47）	㉘（H2）
	70代			60代		50代									40代			20代			10代							
針抜く。	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LH	LL	LL	LL	LH	LL	LL	LL	LL
息吸う。	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LH	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL
空曇る。	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL		LL		LL	LL	LL	LL	LL	LH	LH	LL
肩叩く。	LL	LL	LH	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LH	LL	LL
箸使う。	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LH	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LH	LL	LL
松枯れる。	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LH	LH	LL	LL	LL	LL	HL	LH	HL	LL
数減る。	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL
船進む。	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LF	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LH	LH	LL	LL	LL	LL	LF	LL	LH
海近い。	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LH	LL	LL
中覗く。	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LH	LL	LL	LL	LL	LL	LH	LL	LL
針刺す。	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
息吐く。	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
空見える。	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH		LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
肩なでる。	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
箸持つ。	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
松生える。	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	HL	LH	HL	LH
数増える。	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
船出る。	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LF	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
海見える。	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
中見る。	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
井戸塞ぐ。	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LH	LF	LF	LF	LH	LF	LH	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	HL	LH	LH
窓拭く。	LF	LF	LF	LF	LF	LH	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LH	LF	LH	LH	LF	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LH	LH	LL
秋終わる。	LF	LH	LH	LH	LF	LH	LH	LF	LH	LH	LH	LH	LH	LF	LH	LH	LH	LL	LL	LH	LL	LL	LL	LL	LL	LH	LH	LL
鍋洗う。	LF	LF	LH	LF	LF	LH	LF	LF	LH	LH	LF	LF	LH	LF	LH	LH	LF	LL	LL	LH	LL	LL	LL	LL	LL	LH	LH	LL
蜘蛛追う。	LF	LF	HL	LF	LF	LH	LF	LF	LH	LF	LF	LF	LH	LF	LH	LF	LF	LL	LH	LH	LH	LL	LH	LL	LL	HL	LL	LL
鶴飛ぶ。	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LH	LH	LH	LF	LF	LL	LH	LH	LL	LL	LL	LL	LL	LH	LL	LF
猿鳴く。	LF	LF	LH	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LH	LF	LF	LF	LF	LL	LL	LH	LL	LL	LL	LL	LL	LH	LL	LL
声聴く。	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LH	LF	LH	LF	LF	LL	LL	LH	LL	LL	LL	LL	LL	LF	LL	LF
雨止む。	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LH	LF	LF	LF	LF	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LL	LF	LL	LF
春終わる。	LF	LF	LH	LF	LF	LL	LF	LF	LL	LH	LL	LH	LH	LF	LH	LF	LL	LL	LL	LH	LL	LL	LH	LL	LL	LH	LL	LL
井戸掘る。	LH	LF	LF	LF	LF	LH	LF	LF	LF	LH	LH	LF	LF	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	HL	LH	LH
窓閉める。	LF	LF	LF	LF	LH	LH	LF	LH	LH	LF	LF	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
秋来る。	LF	LH	LH	LH	LF	LH	LF	LF	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
鍋作る。	LF	LF	LF	LF	LF	LH	LF	LF	LH	LF	LF	LF	LH	LF	LH	LH	LF	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
蜘蛛捕まえる。	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LH	LF	LH	LF	LF	LH	LH	LH	LH	LF	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	HL	LH	LH
鶴逃げる。	LF	LF	LF	LF	LF	LH	LF	LF	LH	LH	LF	LF	LH	LH	LH	LF	LF	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LF
猿群れる。	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LH	LH	LF	LH	LF	LH	LF	LH	LF	LF	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH
声出す。	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LH	LF	LF	LF	LF	LH	LF	LH	LF	LF	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LF	LH	LF
雨降る。	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LF	LH	LF	LH	LH	LF	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LF	LH	LH
春来る。	LF	LF	LF	LF	LF	LH	LF	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LF	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH	LH